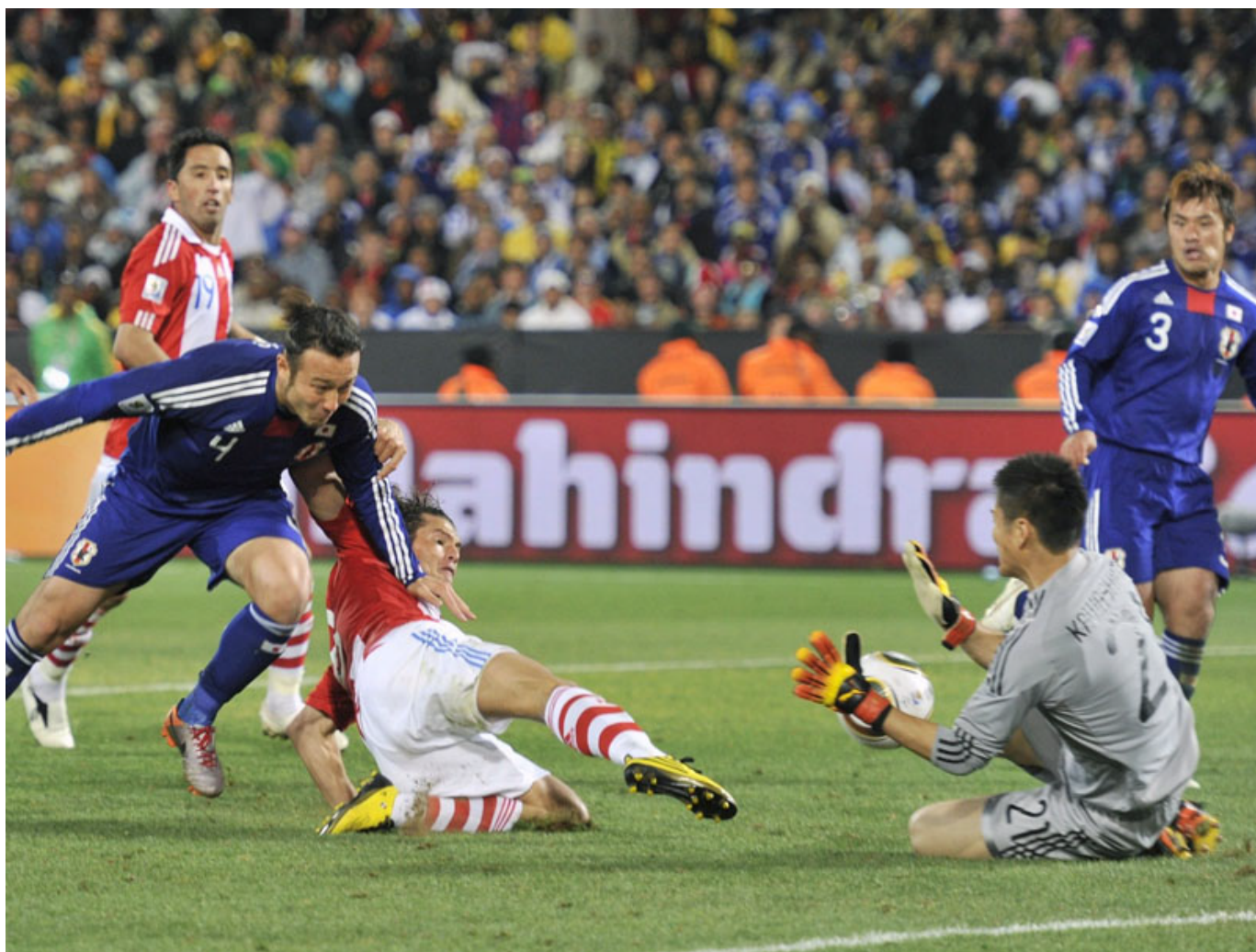


日本8強ならず

死闘PK戦力尽く



日本ーパラグアイ 延長前半、パラグアイのアエドバルデス(中央)のシュートをGK川島(右手前)が好セーブで防ぐ。プレトリア

120分間、0－0



【プレトリア共同】サッカーのワールドカップ(W杯)南アフリカ大会で2大会ぶりに16強に進出した日本は29日、プレトリアのロフタス・バースフェルド競技場で行われた決勝トーナメント1回戦でパラグアイと対戦、延長を終わって0－0からのPK戦に3－5で敗れ、初のベスト8入りを逃した。

4大会連続4度目の出場で1次リーグE組を2勝1敗の2位で突破した日本は、F組を1勝2分けの1位で通過した。パラグアイを相手に前後半と延長を終えて無得点。PK戦は3人目の駒野友一(磐田)が外

し、相手は5人全員が成功。過去の最高成績だった2002年日韓大会に並ぶベスト16で大会を終えた。

パラグアイは7月3日(日本時間4日未明)の準々決勝で、スペインーポルトガルの勝者と顔を合わせる。

南アフリカの地で、日本サッカーの歴史が塗り替えられることはなかった。2大会ぶりの決勝トーナメント1回戦で、日本は南米代表のパラグアイに屈した。4度目のW杯でも、初の8強には届かなかった。

敗とどん底状態で、周囲の期待は薄れていた。過去に比べて日本のファームも盛り上がりに欠けていた。今大会の状況を考えれば、決勝トーナメント進出さえ大方の予想をはるかに超える快挙だった。

どん底からの進撃に称賛

日本は中立地や敵地で過去に1度も南米勢に勝ったことがなかった。1次リーグを突破した勢いをもってしても、その高い壁に阻まれてしまった。

だが、格上ばかりだった1次リーグでカメルーンに1－0で競り勝ち、デンマークを3－1で打ち破つての8強挑戦は誇つていい。大会直前まで国際Aマッチ4連

2007年12月に就任した岡田監督は「世界を驚かす」と意気込み、掲げた大目標は「W杯ベスト4」だった。非現実的として批判や冷笑の的になったが、監督と選手は一丸となって本気で目指していた。確かに世界の4強は遠く、ついに岡田ジャパンの進撃は止まった。だが、W杯を去っていく日本の戦いぶりに称賛の声を贈る人は多いだろう。

下野新聞

しもつけ

発行所 宇都宮市昭和1丁目8番11号
〒320-8686

下野新聞社

電話 028-625-1111
郵便振替口座00350-0-407
©下野新聞社

下野新聞社ホームページ

<http://www.shimotsuke.co.jp/>

電子号外

フリーダイヤル

0120・810081

下野新聞購読お申し込みは

栃木のニュースを携帯でも!!

下野新聞
SOON

月額262円



下野新聞

検索